

教区通信

ふくおか

2020(令和2)年3月1日発行

Vol.131

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ **絆** から、広がる **ご縁** へ

—From tying bonds to great encounters—



▲2020(令和2)年2月11日 寺恋～お寺で始まる縁(こい)もある～

お寺での婚活イベント 寺恋～お寺で始まる縁(こい)もある～……P3

ご挨拶～新年度に向けて～	……P2
第二回 中央委員会報告	……P2
教堂・教区「親鸞聖人報恩講法要」	…P3
連研のための研究会	……P4
連研履修者教区研修会	……P4
教区会議員研修会	……P5

スクール・ナーランダ	……P5
寺院仏壮結成に向けた研修会	……P6
～貧困の克服に向けて～参考書籍のご紹介	…P6
少年連盟子どもをつどい～テラリンピック～	…P7
法話「浄土の光」	……P7
行事予定・編集後記	……P8

ご挨拶

～新年度に向けて～

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 野村 宗雄



平素より教区
の運営・活動、
また教堂の護持
にご理解ご協力
いただいております
こと厚く御
礼申し上げます。

この三月をもって教区会議員、組長をはじめ多くの役職の方が任期を終えご退任になります。大変お世話さまでございました。厚く御礼申し上げます。新たに就任される皆さま、よろしくお願い申し上げます。

昨年も各地で災害が発生し、特に十月の台風十九号は、長野県から東北部の広範囲に河川の氾濫など大きな被害をもたらしました。地球温暖化による海水温の上昇が、降水量や台風の大規模化に影響しているとされています。温暖化だけが要因ではないですが、この冬は寒気の南下が弱く、観測史上記録的な暖冬でした。今年はどうなるかと不安がよぎることです。

教区では、「御同朋の社会をめざす運動」の実践目標に「災害支援」を挙げてきました。来年度から次の計画に移るため、継続は現在未定ですが、今後も支援の姿勢は持ち続けていくべきであります。

いま一つの実践目標「貧困の克服に向けて」～Dana for World Peace～について、私たちを育むために―については、宗門全体の取り組みで、次年度からの四年計画でも継続されます。これまで研修会などで学ぶことから始めましたが、その学び気づきから次への展開ができればと思うことです。

さて、二〇二三年には親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要をお迎えします。広く宗祖聖人ご誕生の意味と立教開宗の意義をうかがい、感謝するご縁とするため、教区や組における法要、諸行事の開催、本山の法要への団体参拝を進める教区法要事務所、法要委員会を次年度に設置することになっていきます。

また、次年度より僧侶の資質向上を目的に、得度習礼の事前講習及び得度考査が厳格化され、これへの対応と勤式の普及向上に資する教区指導体制を検討しつつ確立していく予定です。

その他、将来を見据えながら諸課題に取り組み、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現をめざして、ともに歩みを進めてまいりたく存じます。よろしくご教導、ご協力のほどお願い申し上げます。

二〇一九年度「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 第二回 中央委員会報告

福岡教区中央委員 須藤 哲昭

二〇一九年十二月十三日、伝道本部において第二回中央委員会が開催されました。

まず、重点プロジェクトの現状について関係室部長より報告されました。昨年度より宗派全体で取り組んでいる貧困問題について、各教区・各組の取り組みの統計が示されました。子ども食堂を主催している(五十三件)、子ども食堂に協力(二十二件)、海外支援(二十三件)、学習支援(四十七件)、おやつクラブ(三十六件)、笑顔募金(二十二件)、その他の活動(八十九件)と、全体からするとまだ具体的な活動になっていないのではとの報告を受けました。子どもたちの笑顔のために募金は一五、〇三七、二六九円(十二月十一日現在)で支援先は管理委員会にて分配されるとのことでした。

また、第一回中央委員会にて依頼された重点プロジェクトリーダーの名簿が出され、次期より課題達成のため推進力をもって各教区各組において重点プロジェクトを浸透させるよう要望されました。協議事項では各委員より意見が出されました。まず、今期終了するにあたり中

央委員会の運営や各教区から提出された意見具申を重く受け止め真摯に対応して欲しいとの意見があり、総局はじめ関係部署において慎重に対応しているとの回答がされました。

次に沖縄特区委員より『ドキュメンタリー 沖縄戦―知られざる悲しみの記憶―』の上映を教区や組、各寺院はもとより各地域の一般の映画館で開催出来るよう協力して欲しいとの要望がなされました。沖縄ではすでに上映され、その反響とこの映画のすばらしさを一人でも観て知って欲しいと熱く語られました。

また福岡教区内寺院住職よりのハンセン病に関する総括書について、公開が何時されるのか尋ねました。社会部より「総局の提言を受けながら、整い次第公開するが、まだその段階ではない」との回答でした。

所感ですが、宗派の運動が「基幹運動」から「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)となり、運動の方向が東日本大震災支援から社会貢献へと定着しつつあるなか、私たち宗門の運動とは何か今一度考える時期ではないかと思えます。

教堂・教区「親鸞聖人報恩講法要」

福岡組 徳崇寺 大野 道雄

一月二十六日・二十七日・二十八日の三日間、報恩講法要が勤修されました。親鸞聖人のご遺徳をしのび、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来の本願によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく浄土真宗の僧侶・門徒にとつてもとても大切な法要です。

「奉讃大師作法」・「宗祖鑽仰作法（音楽法要）」・「宗祖鑽仰作法」のお勤め、「御伝鈔」・「御俗姓」の拝読がありました。



講師の本願寺派布教使三宮亨信さん（滋賀教区滋賀組正源寺）により、親鸞聖人が示された念仏の教えが丁寧にお取次ぎされました。親鸞聖人が生まれた年、得度を受けられた時、その時代は武士の台頭により戦乱が相次ぎ、自然災害による飢饉があらちちらで起こり、多くの命が失われたとお話しされました。いろいろな意味でどれほど困難な時代であったかを知らされたことでし

た。この度の法縁を通して、私にとどけられた真実、私が大切にしなければならぬ生き方を学ばせていただきました。親鸞聖人は、生きること一杯の多くの人の命を御同朋（われら）と大切にいたされ、ともに生きられました。「浄土真宗は大乗のなかの至極なり」（親鸞聖人御消息『註釈版聖典』七三七頁）とのお示しを改めていただきます。

念仏の教えは私だけの心の救いではないということ、念仏に生きるとは人びとと共に歩むということがありました。

野村宗雄教堂主管・教務所長から、来る「親鸞聖人御生誕八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」に向けてしっかりと取り組んでまいりましょうとご挨拶いただきました。

礼拝堂満堂の御同行とともに参拝させていだきました。多くの友人に囲まれていることのよさを感じしました。



お寺での婚活イベント 寺恋 ～お寺で始まる縁もある～

子ども・若者ご縁づくり推進委員 花田 美幸

阿弥陀様に見守られながら、雅楽の生演奏のもと司婚の導きをうけて永遠の愛を誓う新郎・新婦。それを真剣なまなざしで見つめる皆さん。司会者からの「華燭の典」についてのアナウンスに耳を傾けます。

『一万本の蠟燭を飾る「万燈会」という儀式の為に蠟燭を集めて回る若者。最後の一本が見つからずに悩み苦しんでいる若者を見て、その若者を慕っていた娘が一本の華を蠟燭の側に添えました。お釈迦様は二人の行いを褒め称え、その後二人は三世に渡り夫婦の契りを結んだと言われ、以来、仏教では結婚の儀式のことを「華」と「蠟燭」の式典、すなわち「華燭の典」と言うようになりました。』

二月十一日、よきご縁を求めて福岡教堂に男女合わせて二十九名の方がたが集いました。お寺や門徒の方ばかりかと思いきや「商店街でチラシを拝見して」と申し込んで来られた方もいらつしたそうです。

模擬仏前結婚式の後は、一対一で三分間ずつの自己紹介タイム。お互いのプロフィールカードを見ながら話も弾んでいる様子でした。続いて質問ビンゴゲームをしながら互いの趣味や共通点を探し

ます。ビンゴになった方には先着で手作りのお念珠などのプレゼントも。

薬膳料理家の白垣寛子先生が準備してくださった材料で、男性はパンケーキをデコレーションし、女性は薬膳茶をブレンドして、互いにシェアしながら会食する時間も設けられていました。クリームやフルーツを盛り付ける作業に少し戸惑っている男性も見られましたが、その後、女性に美味しく食べていただけたようです。

そのまま約一時間のフリータイムの後、意中の方の番号をカードに書いて投票。

めでたく四組のカップルが成立しました。フリータイムの途中には、教堂の御内陣を見ながら「阿弥陀様の左右に掲げられているのはどなたですか」という質問が飛びだし、スタッフのご住職が解説をされる一幕もありました。また、二次会の会食の前には「食前の言葉」を唱えるなど「寺恋」ならではの場面もたくさん見られました。

今回のイベントが、人と人、お寺とのご縁をつくるきっかけとなればよいと感じると共に、このようなイベントに微力ながら関わったことをうれしく思いました。

連研のための研究会

実践運動福岡教区委員会 門信徒教化部部員 志摩田 真生(福岡組正法寺)

○「どうなりたいのか」を考える

二〇一九年十月二十五日、教区「連研のための研究会」に参加しました。連研中央講師の和氣秀剛(奈良教区吉野西組圓光寺)さんを講師に迎えての開催でした。今年のテーマは、「連研ノートE」問7・10のすすめ方」となりました。いわゆる「社会の問題」としてなかなか「自分の問題」にならない話題です。

ご講師からまず提示されたのは、「どうなりたいのか」、すなわち目標(目的)を認識することでした。「テーマとして設定してあるからやる」のではなく、話し合いを通じて、私が、お寺が、どうありたいのかを考える中で、組連研の進め方も見えてくるのでは、というお話でした。なるほど、連研の力キキラムも使用教材も時代の中で常に変化(成長)してきました。現在も例外ではありません。ノートEが完成形だとは思わずに、それぞれの現場で考え抜いてアレンジしていけばいいとのことでした。

そのような問題提起を受けて、班別の話し合いに臨みます。「なかなか全部はできないけれど、問7を起点にもう一つはできるかな」というような意見も聞かれました。また、「話し合いに僧侶が入ると、話が盛り上がりがない」という現実も聞かれました。参加者より、「僧侶が入っても盛り上がるまで入ら続ける」という意見もあり、これからの連研のあり方を、よりオープンな形で話し合う時間と

なりました。

その後、全体協議会が持たれました。お世辞にも「活発に意見が出た」とは言えませんが、少数の出された意見(思い)は、参加者一人ひとりにあらためて「連研とは何か?」と問いかけを投げかけるものであったと感じています。

まよめの最後に、ご講師が「同じ方向を向いていくこと。こだわりすぎることによつて、枠を作ってしまう。こうでなければ、ではなく、できることから、一歩前進しましょう。」とのお話がありました。



問7 自分だけが幸せでよいのでしょうか。私は差別をしたことはありません。なぜ部落差別はなくならないのでしょうか。

問8 私は何をすればよいのでしょうか。環境・臓器移植・格差などの社会問題は、宗教が入り込む問題ではないと思いますか。

問9 戦争をなくし、平和を築きあげるにはどうしたらよいですか。

連研履修者教区研修会

実践運動福岡教区委員会 門信徒教化部部員 志摩田 真生(福岡組正法寺)

二月九日に研修講師の内田正祥さん(東海教区三重組正覚寺)をご講師に迎えて開催しました。

研修会の冒頭に、志摩組明光寺門徒仲西優満さんより中央教修の体験発表をしていただきました。

テーマを「連研を受講してすみ教へと私」と設定して、それぞれが組連研で「何にであつたのか」を振り返っていたと同時に、中央教修参加を促していく内容となりました。

話し合い法座ではご講師より問題提起いただきました。

①組連研を受講して、どのような「であり」がありましたか?

②門徒推進員「中央教修」について、わからないこと、不安なことはありませんか?を話し合いました。

ここ数年、「参加者が少ない」という課題を抱えて開催してきました(昨年度参加者九名)。部内でこの課題を共有し、「呼びかけの徹底」を確認して臨みました。結果、今回は七組二十二名の参加をいただき、三班に分けて話し合いを行うことができました。これを今後も継続していかなければなりません。各組の連研

修了年度が異なることも関わってきますが、対象は「当該年度修了者」ではなく、広く「修了者」であることを踏まえ、粘り強く声かけを繰り返していくことが大切になります。

ご講師の問題提起のお話にもありましたが、連研とは「僧侶が育てられる場所」でもあるということ、本研修の開催にいたるプロセスでも実感することができました。

※当研修会は、各組で連研を修了された門信徒の方を対象にした研修会ですが、連研に関わっている僧侶や門徒推進員の方も聴講として参加できます。来年度も開催いたしますので、ぜひ参加奨励並びにご参加のほどよろしくお願いたします。



教区会議員研修会

福岡教区教区会議長 森口 正乗

二〇一九(令和元)年十一月二十日、野村證券法人ソリューション課課長である塚寄智志さんをご講師としてお越しいただき、「寺院を取り巻く環境変化」「門信徒の実情を知る」をテーマにお話をいただきました。僧侶の認識の甘さを覆すお話を、データを基に熱く語っていただきました。

二十世紀の百年で日本の人口(一二、六六九万人)は前世紀に比べ三倍の急増となり、新たな法律・仕組み・常識・経済が著しく変化発展を遂げて参りましたが、二十一世紀末には、一転して人口は三分の一(五、九七二万人)と言われるほど急激に減少していき、制度も常識もビジネスも余儀なく変化を強いられています。

寺院を取り巻く環境も例外ではなく、寺院と門徒との関係変化は、少子高齢化・核家族・世代間の継承・個人と寺院の関係・位置づけも変化してまいります。寺院に対する変化は宗教間や儀礼の考え方にも変化をおよぼします。寺院の法座参詣・葬儀・法事などの規模の縮小と簡略化の傾向に進み、お墓・納骨堂の墓じまいなど供養形態も例外ではありません。また、記念行事として、大遠忌法要・

住職継職・本堂修復・修繕等将来の懇志支出(人生百年時代の年金生活)の心配など多岐にわたる不安の中に関係性を保っている現実、今にも思いを一つにする歩みを進めなければならないと痛感させられたのであります。

最後にご講師は「お寺も無常の中にあります。新しいお寺像を考えてください。公益性、地域コミュニティとの関係性構築。また、お寺が変わってはいけないものの。教義・理念・思想・哲学・儀礼であります」と語られました。心に残る研修会でありました。



「現代版寺子屋」 スクール・ナーランダ

「お寺で学ぶ、今と未来を生きる智慧」vol.5 佐賀に参加をして

福岡教区仏教青年連盟会員 藤崎 弥誓(東筑組偏照寺)

「スクール・ナーランダ」とは、仏教をはじめ、科学や芸術、哲学など多様な分野の最前線で活躍する講師陣を招き、十代から二十代に向けた、新しい学びと体験の場をめざす「現代版寺子屋」です。異分野の対話が予想を超えた化学反応を起こし、現代を生き抜くための智慧を学ぶ場が「スクール・ナーランダ」です。

二月八日、九日に、スクール・ナーランダが佐賀教区願正寺にて開催され、福岡県より二十一名の参加がありました。

今回のテーマは、『あなたは、あなたが食べるものでできている。』生き物の営み、土地、テクノロジー、「食」をめぐる考察。『土地や自然、生きものや生産者と「食べ物」を通して関わり合っていること、バイオ・テクノロジーによって生物はどう変化していくのか。』

まず、生き物とは・・・というところから宇宙生物学者の方にお話を伺い、テクノロジーと社会関係を表現するアーティスト、そして僧侶より「他者のいのちを取り込むこと」を仏教ではどのよう

に捉えているのか?といったさまざまな立場からお話をいただきました。

「私にとって食べるとは?」というテーマをグループで話し合いました。生物学の先生より、味は刺激で感じる事が出来るので、将来は生き物を食べなくてもよくなる時代が来るかもしれないと言われるが、その時のメリットデメリットとは?殺生は殺しながら生きていると書くが、そのことをちゃんと意識しながら食事をとりたい。他の班よりも様々な意見が出ており、十代・二十代の方が真剣に考える姿に感銘を受けました。自分では考えないような意見を聞けたり、このような問題を言語化する機会もなかったのだとても良い体験でした。

佐賀の土人形「尾崎人形」絵付けワークショップが行われたり、佐賀県出身の世界チャンピオンに輝いたシェフの Pasta をいただいたり、二日目には嬉野茶の接待があり、佐賀ならではのおもてなしもたくさんあり充実した二日間となりました。

寺院仏壮結成に向けた研修会

鞍手組 真学寺 永尾 英信

「寺院仏壮結成に向けた研修会」が十一月十九日、鞍手組西徳寺(直方市)で開催され、教区内仏教壮年会関係者など約六十人が参加されました。この研修会は、寺院仏教壮年の結成に向けた働きかけを促すことを目的に、福岡教区仏教壮年会連盟主催により教区内の組の持ち回りで開催されています。

今回は、「お寺で仲間を増やそう」をテーマに、武田正文さん(山陰教区邑智東組高善寺)を講師に迎えました。

講義では、「現代社会の課題とは何か、これに對しお寺でできることはないか」「少欲知足、和顔愛語、八正道を例に仏教の教える人の生き方は」「お念仏をいただく私たちは今をどう生きるのか」などの話がありました。また、宗門全体で取り組んでいる貧困問題について、「私たちの心のエネルギーを回復する安全基地(安心していられる居場所)が危機に瀕している。貧困の被害者は安全基地を持たない」との指摘がありました。その後の質疑応答では、「南無阿弥陀仏のいわれ」についての質問、「手を合わせる

ことの大切さ」についての意見などが出されました。

青年期と老年期の間に位置する壮年期は、人生と向き合い、人生に問いかける、人生の成熟期とも言うべき大切な年代です。仏法を抛りどころとして、多くの人たちが自他ともに心豊かな生き方を送ってほしいものです。

現在、仏教壮年会連盟への登録単位数は二千五百四十七単位です。寺院の規模の大小はありますが、今回のような取り組みを機縁として、多くの寺院において仏教壮年会が結成され、お念仏申す朋友の輪が広がることを心から念じています。



～貧困の克服に向けて～参考書籍のご紹介～

子供の貧困ハンドブック 著者 松本 伊智朗・湯澤 直美・平湯 真人・山野 良一・中嶋 哲彦

内容

子どもの貧困対策の新しいステージに必要で役立つ基本的な知識・データや考え方をわかりやすくまとめたテキスト・必携書です。子どもの貧困対策法・大綱制定を受け、子どもの貧困対策は、新しいステージを迎えています。この本は、生活困窮や孤立状態にある子どもや家族に手を差し伸べ、子どもの貧困を放置しない社会・地域をつくろうとする自治体職員・議員、教職員、保育関係者、NPOスタッフ、学習支援・子ども食堂・居場所づくりにかかわる市民・学生など、子ども支援にたずさわる方々に役立てていただきたい1冊です。講演会・研修・学習会・授業のテキストとしても最適です。

目次

- 1 そもそも「貧困」とは？
- 2 私たちの社会は、どんな社会？
- 3 なぜ、このような貧困があるのでしょうか？
- 4 貧困が引き起こすマイナス影響
- 5 子どもの貧困対策法とは？
- 6 多様にとらえる子どもの貧困
- 7 すべての子どもへの見守りと支援
- 8 特別な支援ニーズのある子どもたち
- 9 地域からつくる子どもの貧困対策
- 10 法・制度のはざままで奪われる権利



貧困とは何かを提示し、貧困をなくすための取り組みの現状など、必要で役立つものをコンパクトにまとめたハンドブックです。とてもわかりやすく、入門書としても適していると思います。

この書籍は福岡教堂2階ロビーの少年連盟資料棚にございます。詳細は職員にお尋ねください。

「少年連盟子どものつどい」テラリンピック」

二〇二〇年二月二日、に本願寺福岡教堂にて「福岡教区少年連盟子どものつどい」を開催いたしました。

今回はオリンピック開催の年ということもあり「テラリンピック」と題して、子どもたちに様々な競技に挑戦していただきました。

前半はチームに分かれて「ストラックアウト」や「スカットボール(複数の穴に入れるグラウンドゴルフのようなスポーツ)」「玉入れ」「ひつくり返し競争」「重さ当てゲーム」に挑戦。後半はチーム対抗の「ボッチャ」大会を行いました。珍プレーやファインプレーが続出する熱戦が繰り広げられました。

最後は各チームにお菓子トロフィーとメダルが授与され、チームのみんなでお菓子を分け合いながらテラリンピックは幕を閉じました。

二〇二〇年度も子どもの集いを開催いたしますので、皆様の参加を心よりお待ちしております。



ボッチャとは・・・?

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

「一般社団法人日本ボッチャ協会」HPより

道具貸し出しのお知らせ

本堂の広さでできる競技で、個人・団体戦どちらでも可能です。子どもだけではなく、ご年配の方もできるスポーツとなっております!

その「ボッチャ」の道具を少年連盟にて購入いたしました!

少年連盟単位会や教区内寺院へ貸し出します。ぜひご利用ください。

単位会寺院……無償
非単位会寺院……二千元

※福岡教区教務所

少年連盟事務局まで

お問い合わせください

※教化団体紹介は休載いたします

一言法話

今から八年前、春彼岸の御中日に長女が誕生しました。

帝王切開だったので、手術の間、私は待合室で期待と心配が入り交じりソワソワしながらも、名前はお経様からいただくことと『浄土真宗聖典(註釈版)』を読んでいました。どのくらい時間がたったのかわかりませんが、ある御和讃を読んでいるときに看護師さんから

「元気な女の子が産まれましたよ。」と呼ばれました。その言葉をかけられたとき、何か光がさしこんできた、何かに照らし出された感覚がしました。仏様の子どもを授かったということ、名前はそのときに読んでいた御和讃からいただきました。そのときの御和讃が

一々のほなのなかよりは
三十六百千億の
光明でらしてほがらかに
いたらぬところはさらになし
(『浄土和讃』・『註釈版聖典』五六三頁)

この御和讃は阿弥陀様(お浄土)の働きが光として表されています。浄土に咲いたくさんの蓮華には百千億の花びらがあり、その花びらに青・白・黒・黄・朱・紫の六光があり、それぞれ

「浄土の光」

仙林寺 林 恵 蓉
組 田 花 嘉 麻

互いに照らし合うので六々三十六の百千億の光明になります。その沢山の光明が私たちを照らし輝かせて下さるのです。例えば、太陽が日の出とともに辺り一面をあたたかに照らし出すように。そしてその光は「いたらぬところはさらになし」と届かないところはない、どのような場所にいるどんな人であっても、照らすにはおれないというはたらきをもっています。

阿弥陀様の極楽浄土は、阿弥陀様の願いによって建立されました。お浄土のすがたがたちそれぞれが阿弥陀様の本願です。互いに照らしあい輝きあう花の光は、どのような者も漏らさず救うという阿弥陀様のご本願であり、そして先に浄土に往生されたいった方がたのすがたなのです。

お浄土からのひとすじの光がいま私たちの上に「念仏申せよ、浄土に生まれよ」と降りそそいでいます。

まもなくお彼岸です。ご先祖様や先に往生された方がたを偲びつつ、お浄土から降りそそぐ光に身をゆだね、「南無阿弥陀仏」とお念仏いただきます。

私も娘と共に浄土の光の中にお念仏をいただいています。

称名

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内 容
3月	2	月	14:00	寺院機能推進部会 研修会
	3	火	14:00	福岡矯正管区教誨師連盟 臨時理事会
	6	金	10:30	仏教婦人会連盟若婦人部 代表者会／13:00 門徒推進員連絡協議会 役員会
			15:00	子ども・若者ご縁づくり研修会
	11	水	14:00	同朋運動部会
	14	土	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	18	水	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会
	24	火	14:00	教区会
	25	水	10:00	仏教婦人会連盟 支部長会／14:00 ビハーラ・ライン・福岡 例会
			14:00	寺族婦人会連盟 幹事会
4月	27	金	15:00	常任委員会
	28	土	10:30	門徒代表者協議会 役員会／14:00 仏教壮年会連盟 理事会
	2	木	10:00	仏教婦人会連盟 支部長会
	7	火	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会
	8	水	10:00	門徒推進員連絡協議会 監査／13:30 門徒代表者協議会 監査 役員会
	14	火	10:30	清掃奉仕(福岡組・上下組)／13:30 親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	16	木		仏教婦人会連盟 総会(本山～17日迄)
	17	金	15:00	仏教青年連盟 監査／16:00 保育連盟 監査
	18	土	10:30	門徒推進員連絡協議会 総会
	20	月	10:00	布教団 監査／14:00 布教団 役員会／15:00 少年連盟 監査
5月	21	火	14:00	ビハーラ・ライン・福岡 例会
	22	水	14:00	ビハーラ福岡 例会
	23	木	14:00	寺族婦人会連盟 総会
	24	金	13:30	臨時教区会
	13	水	13:00	ビハーラ福岡 例会／14:00 ビハーラ福岡 総会
	14	木	10:30	清掃奉仕(志摩組・西嘉穂組)／13:30 親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	22	金		時局問題対策協議会 全体会・総会
	3	火	14:00	ビハーラ・福岡 例会
	5	金		仏教婦人会連盟 総会
	10	水	14:00	ビハーラ・ライン・福岡 総会
6月	12	金	18:00	仏教青年連盟 総会
	14	日	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	15	月	10:30	清掃奉仕(御笠組・夜須組)
	18	木		戦争犠牲者追悼法要
	19	金		門徒代表者協議会 総会
	26	金		布教団 総会

※COVID 19(新型コロナウイルス)等により予定は延期や中止など変更の可能性がございます

編集後記

2月7日ご本山の如月忌法要に参拝いたしました。如月忌法要は、当時、現・仏教婦人会総連盟総裁代理、本部長として運営の重責を担われ、また1923年9月の関東大震災による負傷者・孤児の救援活動にも取り組まれた九条武子様の命日2月7日に営まれます。寒い時期ですが、皆様も如月忌法要に参拝しませんか。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 野村 宗雄

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2
電話:092(771)9081